

令和3年度「市長と語り合う会」について（二川地区）

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
令和3年 11月1日（月）	二川公民館	19:00～20:00	13	3	16

- 市側出席者
市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書課長

2 会の概要

- 開会（秘書課長）

- ・ 会の趣旨説明
- ・ 出席者紹介

- あいさつと市政運営の説明（山本市長）

1. 令和3年度施政方針「コロナ対応と次の跳躍への備え」

・ワクチン接種

コロナへの対応については、昨年度は国の特別定額給付金をいち早くお届けすること、市独自の緊急経済応援給付金などの経済的支援が中心であった。今年度はやはりワクチン接種が最重要施策である。春先から医療従事者等、次いで65歳以上の方、それ以下の方と進め、現在12歳以上のすべての市民を対象に接種を行っている。現在1回目で約90%、2回目で約85%の市民が接種を終えている。希望されない方、体質的にワクチンが合わない方等を除けば、ほぼ行き渡ったと考えている。今後は順次12歳を迎える子どもへの接種や、最近国から示された3回目の接種への取り組みが控えている。3回目については、12月もしくは年明けから対象となる方が出てくるので、円滑に進めていきたい。全国的に感染者数が急激に減少したが、県内ではクラスター発生などもあり、ワクチン接種後もマスク着用、手洗い励行が大事であると市民に啓発していきたい。

コロナが落ち着けば、経済を回していくこともより重要になってくる。市内のイベント等も少しずつ回復傾向で、萩・石見空港マラソンも2年ぶりに開催した。

・空港・高速道路関連

萩・石見空港は、昨年度の羽田空港発着枠政策コンテストを経て、東京線2往復運航の継続が決まった。ただしまだコロナの影響で減便しており、多くても1便で、全く飛ばない日もある。コロナ終息に伴って誘客の取り組みを行っていかねばならない。そのためにもANA、県、近隣市町との連携を強化していきたい。

高速道路については近年の進捗が順調である。三隅～益田道路が令和7年中に開通の見通しで、全体的にもより早い開通を引き続き国に要望していく。また昨年度は益田西道路（須子～小浜間）が、今年度は益田田万川道路（小浜～田万川間）が事業化となった。益田西道路には、臨空ファクトリーパーク近傍に白上インターチェンジができる予定で、新しい企業の誘致にも拍車がかかるものと期待している。

・日本遺産認定を活かす施策

昨年度、益田市の中世に関する様々な歴史遺産が、全国108カ所のひとつとして認定を受けた。一昨年は益田市を含む地域で石見神楽の認定を受けたが、今回は益田市単独である。これを生かす取組みとして、誘客の足掛かりとなるビジターセンターを、休館中の歴史資料館において整備していく。また近傍の高校と連携した武将のイラスト作成など、遺産を生かす取組みを行っている。これも空港や高速道路とあわせて観光振興につなげ、誘客を促進していきたい。もちろんその他の観光資源、ここ二川でいえば柴犬のルーツである石号の所縁の地であることなども相乗効果を狙っ

て進めていきたい。

・益田市型中高一貫教育の実現に向けた取組

中学高校の6年間を一貫した形で行い、中等教育環境を向上しようとするものである。市の基幹産業であるものづくり企業や、医療に携わる理数系の人材が求められており、また島根大学等でも理工系の人材育成に力を入れておられる。そうした高等教育機関等とも連携して、益田市出身者が市内・県内で活躍できる基盤を作ることを目指している。その実現に向けて、様々な下準備を行っているところである。

2. 美都・匹見総合支所の名称変更

合併以来、旧町役場に支所を設置し部長級の支所長を配置し、当初は4課、のち行財政改革の流れを受けて3課、さらに現在の地域振興課1課へと編制を見直してきたが、令和4年度からは支所という名称と支所長の配置を廃し、課長級職員をもって統括することとする。ただ地域の様々な行政ニーズにしっかりこたえる体制を維持する。特に最近重要度を増している災害対応については、早期に機動的な初動対応が取れるような体制を確保していく。一方、観光振興などの面では、合併の本来の趣旨を生かし、市全体を一体のものとして推進していきたい。これらについて住民の皆様のご理解・ご協力をお願いしたい。

○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 認可地縁団体の資産について
- ② 旧二川小施設の利活用について
- ③ 観音堂について
- ④ 消防団の事務について
- ⑤ 非常時の対応について
- ⑥ 川に散乱する木について
- ⑦ 矢原川について
- ⑧ 携帯電話の電波について
- ⑨ ナイター設備について
- ⑩ 補助金に係る市民への対応について

○ 閉 会 （秘書課長）

令和3年度「市長と語り合う会」

【会場 二川公民館 開催日時：令和3年11月1日（月）19:00～20:00】

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 認可地縁団体の資産について 地域自治組織の法人化を進めているが、市から地方自治法上の認可地縁団体と認められるための要件について、総務省と益田市で資産に係る標記が異なる。市の表記では、除雪用車両等の保有が認可の要件とならないように読める。</p>	<p>① 詳細を把握していないが、いただいた資料を見る限り、おっしゃる通り差異がある。市の表記が、国と異なる取り扱いをする意図なのかどうか把握して、後日お答えしたい。 (記載の不備であり、国と同様の要件であることを、後日質問者に回答済み)</p>
<p>② 旧二川小施設の利活用について 青少年宿泊施設にする計画を進めているが、閉校後8年経っており進んでいない。地域も努力するので、市も早く取り掛かってほしい。</p>	<p>② 小学校統廃合の際に覚書を交わし、市と地元で協議してきた。2階の宿泊施設は地元が運営し、円滑な運営を市が支援することとしている。協議が整いしだい整備を行っていく。</p>
<p>③ 観音堂について 双川峡への道に観音堂があったが、落石で破損している。市の土地だと思うが、再建させてほしいが、どこに相談すればいいか。</p>	<p>③ 今後は本庁の観光交流課が所管となるので、ご相談いただきたい。</p>
<p>④ 消防団の事務について 事務を(美都匹見の)分団でもやるようにという動きがある。旧益田市の分団はやっているからと。しかし年齢構成などが違い、人が減る中で同じようにはできない。市の職員が今まで通りやってくれればすむことだ。</p>	<p>④ 美都の場合、支所で事務の大部分を担っていたという実情はある。合併の本旨としてどこも同様にする原則はあるが、公式に一本化する困難さもある。市側とよく協議していただきたい。</p>
<p>⑤ 非常時の対応について 支所を縮小させる中で、災害など非常時の対応をどう考えるか。(除雪対応など) 土建屋も大手はいないし、地元は不安に思う。</p>	<p>⑤ 初動については地理的条件があるので、支所で対応できる人員配置が必要と考える。美都と匹見では条件も異なり、地域事情に配慮する必要がある。</p>
<p>⑥ 川に散乱する木について 双川峡から若杉までの間の川に立木（もしくは流木）が散乱しており、撤去してほしい。</p>	<p>⑥ 急ぐよう指示する。</p>
<p>⑦ 矢原川について 県事業だが、堆積物がかなりあるので、処理について要望してほしい。</p>	<p>⑦ 改めて地元の要望があったことを県に伝えていく。</p>
<p>⑧ 携帯電話の電波について 矢原川周辺で通話できないことがある。避難場所もあるので、対応が必要だと思う。</p>	<p>⑧ 山間部の不感地域についてはまだ問題があることと思う。基本的には携帯キャリア会社が基地局を建設しなければならない。徐々にではあるが解消に向かうよう対応していく。</p>
<p>⑨ ナイター設備について 当地のグラウンドで、夜間も消防団の練習ができるように整備してほしい。</p>	<p>⑨ なるべく早く復旧できるよう対応する。</p>
<p>⑩ 補助金に係る市民への対応について 田に竹炭を使うと補助金が出ると聞いたが、問い合わせると、最初そういうものはないと言いき、繰り返し訊くと、実はあるがすでに終わったという返答だった。</p>	<p>⑩ 補助金については把握していないが、お話になったような説明だったとすると、親切とは言えない。丁寧に説明するよう指示する。</p>